

2026(令和8)年度

施政方針



那覇市

< 目 次 >

1 市政運営の基本姿勢

- (1) はじめに
- (2) 選ばれるまちへ
- (3) 歴史をつなぎ、文化を発展させる
- (4) 子どもが羽ばたく後押しを
- (5) より便利で人に寄り添う市民サービスの提供を
- (6) 生活を守り、経済を活性化させる
- (7) 安らぎを感じる安全安心なまちづくり
- (8) すべての市民が健やかにいきいきと暮らせるように
- (9) なはの未来をともに描く

2 予算編成と主要事業の説明

- (1) 予算編成の説明
- (2) 主要事業の説明

3 結びに

未来を拓く、なは☆ひとづくり、まちづくり、ゆめづくり

(はじめに)

はいさい くすーよー ちゅーうがなびら。

第34代那覇市長として迎える最後の年となりました。

この3年余り、「市民のために、市民と共に、市民本位」との想いを胸に、こども家庭センターなはの設置や教員の負担軽減、学校給食費の補助など、子どもたちの健やかな成長を支える政策を推進するとともに、パークPFIなどの民間活力の導入により公共施設の充実を図ってまいりました。

加えて、国連機関との連携やLRTの導入に向けた具体的な検討に着手するなど、未来を見据えた種まきにも尽力いたしました。約11年ぶりに開催された「県都那覇の振興に関する協議会」では、国及び関係機関との連携が強化され、本市のさらなる成長に向けて進展させることができました。

また、「GW2050 PROJECTS」に象徴されるように、民間事業者、特に若い世代から沖縄の未来を自ら切り開こうとする新たな試みが芽吹いております。彼らと意見を交わすたび、その柔軟な発想と行動力に深い感銘を受けるとともに、本市の未来は明るいものであると確信しております。こうした活動を支援し、連携していくことで、めまぐるしい変化の中でもしっかりと根を張り、たくましく成長する市政を築いてまいります。

一方で、少子高齢化や人口減少はますます深刻化しております。人口政策は全国的にも有効な手段が確立され

ていない難題であり、この新たな局面にこそ、固定観念を打ち破り天馬空を行くの精神で果敢に挑戦していかなければなりません。

引き続き、胸襟を開いて市民の皆様との対話を重ねながら、芽吹いた蕾が大きな花を咲かせ、実を結ぶように責任をもって育てまいります。

市民の皆様並びに、本市議会の皆様におかれましては、市政へのご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

それでは、令和8年度の市政運営の基本姿勢と予算案、主要事業をあわせてご説明申し上げます。

ゆたさるぐとぅ うにげーさびら。

(選ばれるまちへ)

私はこれまでも、「多様性に寛容な社会の実現が何よりも重要である」との信念のもと、市政運営に取り組んでまいりました。アメリカの社会学者リチャード・フロリダ氏の研究によると、都市の競争を支える3要素として「技術」、「人材」、「寛容性」が挙げられ、とりわけ「寛容性」が重要であると説かれております。多様な人々や価値観を受け入れる寛容性に富んだまちには、世界中から多くの人材が集い、新しい技術や産業が生まれ、経済も発展することが、研究結果からも導き出されています。

本市に目を向けると、琉球王国時代から外国との交易を通じて、様々な人々や多様な文化が交わり、違いを認

め合いながら栄えてきた歴史があり、すでに寛容な社会の素地が整っております。この強みをさらに磨き上げることで、世界中から人材と技術が集積し、産業が発展する魅力的な都市へと飛躍させていくことが私の使命であると考えております。

また、本市の未来を担う人材の育成にも力を注いでまいります。日本の南の玄関口として国際交流拠点になりうる本市の主演となる人材を育てるため、グローバル教育を拡充、強化いたします。子どもたちが多様な文化に触れ、国際社会で活躍できる人材に成長できる環境を整えてまいります。

本市に受け継がれてきたポテンシャルを最大限に活かし、未来につながる土台をしっかりと築き上げ、世界から選ばれる「万国津梁のまち NAHA」の実現に向け、引き続き全力を尽くしてまいります。

(歴史をつなぎ、文化を発展させる)

昨年は戦後 80 年を迎えた節目の年であり、平和祈念式典やシンポジウムなどを通して、本市の想いを語るとともに、戦争体験者や学生などの多くの方々との戦争の実相や平和の尊さに向き合う機会をいただきました。様々な立場から語られた言葉に耳を傾ける中で、歴史の重みとともに、戦禍の記憶を風化させることなく、次世代へ継承していく責務の重大さをあらためて痛感いたしました。今を生きる世代の責任として、特に若い世代に戦争

の悲惨さと復興の歩みを確実に伝え、終戦 100 年に向け、平和をつないでいく決意をより一層強くいたしました。

そして今年の秋にはいよいよ首里城正殿が再建されます。ここに至るまで尽力くださった関係者の皆様、全国から温かいご支援を寄せてくださった多くの方々に那覇市民を代表して、あらためて深く敬意と感謝を申し上げます。

戦争や火災で幾度も消失しながらも、そのたびに甦ってきた首里城は、まさに不屈の復興を遂げた本市の歴史を象徴するものであります。再建を契機として、首里城と周辺地域、そして市内全域で一体となって盛り上げ、本市の歴史を多くの方に伝えてまいります。

加えて、本市には琉球王国時代から受け継がれてきた文化が数多くございます。泡盛の製造技術や壺屋焼、首里織をはじめとする伝統工芸の業、空手、棒術などの武術、琉球舞踊・音楽、路次楽やフェーヌシマなどの芸能、まつりに華を添える旗頭、そのどれもが各地域の特色を伝える本市の誇りであり、守り育てていくべきものでございます。

本市が誇る伝統文化を平和への願いとともに次世代へ継承するとともに、より多くの人々が親しみ、楽しんでいただけるものとしてあり続けるよう発展させてまいります。

(子どもが羽ばたく後押しを)

昨年、沖縄尚学高等学校野球部が夏の甲子園で優勝を果たし、その鮮やかな活躍に多くの県民が心を躍らせました。私も決勝戦を現地で観戦し、その若き熱意と躍動に胸を熱くいたしました。その後、本市を中心に開催されたWBSC U-18 野球ワールドカップにおいても、県勢を含む若者が世界の舞台で活躍する姿は、再び県民を熱狂させ、沖縄に夢と希望をもたらすものでございました。

本市の子どもたちが様々な舞台で活躍する報告を聞いたとき、その未来に広がる無限の可能性を強く実感いたします。その力を伸ばせるよう、子どもたちが自らの夢を見つけ、熱中し、挑戦し続けることができる環境づくりに努めます。そのためにも、すべての子どもが自らを肯定しながら、権利を保障され、主体となる社会づくりを推進してまいります。

一方で、全国的に不登校の子どもが増え続けており、本市も例外ではございません。本市としても、様々な事情で登校できなくなった子どもたちが自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立することを目指すための支援とともに、子どもたちにとって安心できる学びの場の充実に努めます。

本市の未来を担うすべての子どもが健やかに成長しながら、自らの可能性を信じ、夢に向かって羽ばたいていけるよう、全力で支援してまいります。

(より便利で人に寄り添う市民サービスの提供を)

私は副市長時代から、市民サービスの向上と行政事務の効率化を目指し、行政DXに取り組んでまいりました。

進展著しいAIの技術を積極的に活用した業務効率化に加え、昨年は行政手続きのオンライン化の拡充や公式ホームページの全面リニューアルを手掛けるなど、暮らしをより便利にし、行政をより開かれたものに変えるための施策を展開しております。

今年、こうした取組をさらに前進させ、県内で初めてコミュニケーションAIを使った窓口案内の実証を開始いたします。画面越しに、まるで人間のようにふるまい、応答するAIとの会話は、私自身が子どもの頃に想像していた未来そのものであり、市民の皆様にもぜひ体験していただきたい新たなサービスの形でございます。これをきっかけとして、AIと共存するまちづくりへの新たな一歩を踏み出します。

一方で、デジタル化に不安や戸惑いを持つ方々が取り残されることがあってはなりません。デジタルに触れる機会の提供や操作方法の分かりやすい周知、多様な対応により、誰もが安心して地域のサービスを利用できる「人に優しい市役所づくり」にも取り組んでまいります。

このようなデジタル技術の活用が推進される時代においても、市民サービスを最前線で支えるのは職員でございます。

昨年、沖縄愛楽園の皆様を琉球王朝絵巻行列にお招き

いたしました。ハンセン病によって施設への入所を余儀なくされた方々からの「首里城のお祭りの国王と王妃の行列を見たい」という願いを耳にした職員が、関係課とともに尽力したことで実現したものです。愛楽園の皆様が「夢が叶った」と喜ぶ姿を見て、日頃から市民の皆様へ細やかに心を配り、寄り添う職員が育っていることを実感し、私にとっても忘れがたい光景となりました。

このように市民の皆様にも真摯に向き合い、労を惜しまずに行動し、新しいことに挑戦する職員とそれを支える体制が、私の思い描く行政サービスの礎でございます。これからも、職員と共に、市民の皆様の声拾い、人生とともに歩む行政の実現を目指します。

デジタル技術と人の力を両輪として、市民の皆様への利便性の向上とより丁寧で質の高いサービスの提供に挑戦し続けてまいります。

（生活を守り、経済を活性化させる）

昨年は、沖縄県の入域観光客数が過去最高を記録するとともに、最低賃金が初めて千円を超えるなど、市民の所得向上に明るい兆しが見えた一年でございました。

その一方で、物価高は依然として続いており、市民生活に影響を及ぼしております。これまで、子育て世帯への給付金、学校給食費の補助、こども園や児童クラブなどへの食糧費の支援、おこめ券の配布や水道基本料金の免除などにより市民の皆様への負担軽減に努めてまいりま

した。今年も、皆様の生活に目配りしながら、暮らしを守る施策を全庁一丸となって講じる所存です。市民の皆様に信頼され、頼っていただけるよう、最後の砦としてあり続けながら、皆様の暮らしに寄り添ってまいります。

また、マチグッーを歩くと、県内企業のロゴマークをあしらったTシャツやカバンを身につけた観光客でにぎやかな景色が広がっております。その楽しそうな姿は、SNSなどで発信され、本市の魅力を多くの方に伝え、新たな賑わいを呼んでおります。この活気を市内経済の活性化に確実に繋げるため、他産業と連携した観光資源の開発、都市型MICEの推進や国際大会と連動した魅力発信などに努めてまいります。さらに、本市の魅力である伝統的なまちなみや文化を活用しつつ、市民や観光客、そして市内事業者など様々なステークホルダーの観光振興への理解を醸成することにより、「美ら島の持続可能な国際観光交流都市」としての付加価値を高め、市内全域に効果を波及させてまいります。

加えて、強い経済基盤を構築するためには、市内事業者の経営と雇用の安定が不可欠であることから、労働生産性の向上、商品開発、販路拡大や従業員のスキルアップなどの「稼ぐ力」を高める取組や経営課題の解決を支援してまいります。

本市の持つ魅力を最大限に活かした経済振興と、暮らしを守る施策を連動させ、相乗効果を生み出しながら、活力あるなはを築いてまいります。

(安らぎを感じる安全安心なまちづくり)

本市は今年、市制施行 105 周年を迎えます。小さな浮島から始まった那覇は、沖縄の県都として、コンパクトな市域に多彩な都市機能を有する近代都市に発展いたしました。市政を担うものとして、先達に学びながら、持続し、発展していくまちづくりを進めていく決意であります。

昨年は、本市で初めてとなるパーク P F I を活用して整備された公園施設が供用開始され、多世代が集う交流の場として好評を得られております。私自身、新都心公園を散策中に、子どもたちから「のんびりできて、いままでより楽しくなった」と声をかけられ、こうした場が暮らしに潤いをもたらしていることを実感いたしました。引き続き、市民の皆様が安らぎを感じる場所の充実に努めてまいります。

そして、安らぎを感じるためには、安全安心を実感していただく必要がございます。昨年 11 月、本島北部の導水管破損により発生した断水は、本市にも大きな影響を及ぼしました。予期せぬ事態に混乱する中、最善を尽くして対応した職員を頼もしく感じるとともに、災害はいつ、どのように発生するか分からないということを改めて実感した出来事でございます。本市において、同様の事故を起こさぬよう、上下水道管路等の点検・更新に努めてまいります。

加えて、災害時の備えとして、生活用水の確保に向け

た調査や被害拡大のリスクを持つ密集住宅市街地の環境改善に取り組むとともに、誰もが迅速に避難できるまちづくりに努めてまいります。

さらに、日勤救急隊の導入、真和志出張所の整備や車両等の高機能化により消防力を強化するほか、市民の皆様が楽しみながら防災意識を高められる啓発活動を展開し、地域ぐるみの防災力向上にも取り組み、災害に強いまちづくりを図ってまいります。

これからも市民の皆様が愛着を持ち、安全安心を感じる「住みよいまち」を創り上げてまいります。

(すべての市民が健やかにいきいきと暮らせるように)

昨年、新那覇市立病院が開院いたしました。新病院により、市民の皆様の命と健康を守るための機能がより一層強化され、安心して子どもを産み育てられる環境づくりも推進されました。地域の急性期機能を維持しつつ、南部医療圏全体を支える「急性期拠点機能」を目指すための基盤も整ったものと考えております。大規模災害時の体制整備も進めており、これまで以上に「市民の命を守る砦」としての責務が果たされることを期待しております。

一方で、市民の皆さまの健康を守るためには、心身ともにいきいきと暮らせる地域づくりも必要でございます。「なは健康づくりパートナーズ」と連携し、市民の皆様が主役となった健康づくりを支援するとともに、住み慣

れた地域で安心して最期まで暮らすための「地域包括ケアシステム」の実現を目指し、住民主体の介護予防活動や地域の力を活用した連携体制の確立に取り組みます。

加えて、複雑多様化する支援ニーズに対応し、地域において必要な支援に繋げるための包括的な支援体制の提供や、犯罪の被害に遭われた方が、被害から回復し平穏な生活を送るための体制構築を目的とした条例の制定に取り組むなど、すべての人が健やかに過ごせる環境を整えます。

さらに、学校や公園などの公共施設におけるユニバーサルデザインの採用を促進し、障がいのある方の進学・通学や就労支援も充実させることで、誰もがいきいきと暮らせる共生社会の実現を目指します。

地域を担う皆様とともに、「互いの幸せを地域と福祉で支え合い、誰もが輝くまちNAHA」の実現に向け邁進いたします。

（なはの未来をともに描く）

本市のまちづくりの指針である第5次那覇市総合計画の期間が残り2年となりました。今年は、次期計画の策定に着手いたします。

コロナ禍による社会変革の中で、働き方や暮らしに対する新たな価値観が生まれております。デジタル技術が急速に進展し、ワーク・ライフ・バランスの重要性が再認識されるとともに、ウェルビーイングやSDGsの理念

が浸透したことで、まちづくりにおける新たな視座が求められております。さらに、民間主導による「GW2050 PROJECTS」が動き出すなど、時代が大きな転換期を迎えています。変化を的確に捉え、AIによる未来予測も取り入れながら、市民の皆様と胸躍る未来を共有できる計画を策定したいと考えております。

また、本市が長年掲げてきた「協働によるまちづくり」の理念を継続し、計画策定の各段階で幅広くご意見を賜る予定です。市民の皆様の多様な声を聞き、対話できる機会を得られることを、心より楽しみにしております。

さらに、本市の未来の柱として、人口政策が不可欠であることから、「(仮称)なはみらい推進室」を新設し、全庁を挙げての挑戦を開始いたします。市営住宅における子育て世帯及び新婚若者世帯への支援を皮切りに、様々な施策を積極的に講じてまいります。

本年は、これまでの歩みを振り返りつつ、未来への懸け橋となるビジョンを描く重要な1年になると確信しております。本市に暮らし、働き、集う方が「住みたい、住み続けたい」と思うまちの実現に向け、力強く踏み出してまいります。

予算編成と主要事業の説明

(予算編成の説明)

それでは、令和8年度予算案の概要を申し上げます。一般会計予算は1千852億2千万円で、対前年度比

1 億 7千 700 万円、0.1%の減となっております。

歳入予算では、市税収入は、個人・法人市民税や固定資産税などの増収を見込んでおりますが、国・県支出金については、地方交付税や沖縄振興公共投資交付金などの減額を見込んでおります。

歳出予算では、物価や人件費の上昇、扶助費など社会保障費の増加へ対応しつつ、災害への備えを高めるための予算や子ども政策をはじめ、学校施設長寿命化事業などの建設事業、グローバル教育推進事業及び物価高対応事業など、各分野へ幅広く予算を計上しております。

企業会計を除く特別会計予算は、総額約 770 億 3千 300 万円で、対前年度比約 14 億 1千 500 万円、1.9%の増となっており、主に介護保険事業特別会計によるものとなります。国民健康保険事業特別会計の財政赤字に対しては、引き続き一般会計からの政策的な繰り入れを行います。

結果として、約 57 億 7千 500 万円余りの収支不足が生じておりますが、財政調整基金及び減債基金を取り崩して対応いたします。

(主要事業の説明)

次に令和8年度の主な事業を、第5次那覇市総合計画で掲げた5つのめざすまちの姿に沿って、ご説明いたします。それではまず、「多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA」に係る事業

についてご説明いたします。

(小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり)

協働によるまちづくりの推進では、地域づくりの主役となる市民と、小学校区まちづくり協議会を核に対話を重ね、寄り添いともに考え歩む姿勢で「那覇市地域づくり推進方針『ゆるやかなつながり』のある社会へのみちしるべ」に基づき、その実現に向け取り組みます。

SDGs につながる民間団体の取組を、市民や企業が出資で応援し、成果達成時に本市が元本と分配金を支払う仕組みである「那覇市版 SIB (ソーシャルインパクトボンド)」を用いて、協働による社会的インパクトを造成し、持続可能な地域づくりを進めます。

(地域の力が重なる安全安心のまちづくり)

安全安心なまちづくりにおいては、市民の生命及び財産の安全を災害から守るため、「那覇市地域防災計画」の更新を行います。

予測困難な災害に備え、様々な手法で防災訓練を実施するとともに、災害時に指定避難場所及び緊急一時避難場所に円滑に避難できるよう、避難所及び避難場所に周知用看板を整備します。

さらに、災害対応力を高めるため、防災行政無線の更新と高機能化を図るほか、各種災害へ迅速・確実に対応できる体制を維持するため、「高機能消防指令システム」

及び「消防救急デジタル無線」の一体運用を令和8年4月から開始します。

暮らしを守るまちづくりでは、保安灯の設置及び維持、防犯カメラの設置を行う団体に対し補助を行うほか、交通安全運動を推進し、安全で快適な生活環境の確保を促進します。

消費者被害の未然防止のため、啓発活動や消費教育、相談業務等を通して、市民の安全安心な消費生活の確保に取り組みます。

生活に困窮している方に対して、生活や就労などの自立に向けた支援を伴走型で取り組むほか、「就労準備支援事業」及び「家計改善支援事業」を実施します。

在住外国人が安心して暮らせるように、住民登録をはじめ、健康保険、税金などの適切な窓口へ案内できるように多言語対応により支援します。

（交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり）

友好都市である神奈川県川崎市との提携 30 周年、及び中国・福州市との提携 45 周年という節目の年を迎えるにあたり、今後一層の友好都市発展を図るため、親善交流の促進に向けて取り組みます。

また、昨年に引き続き、広島・長崎の平和記念式典へ参列し、平和交流を推進します。

(人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり)

なは女性センターの開設 30 周年及び那覇市性の多様性を尊重する条例制定に合わせてシンポジウム等を開催し、性の多様性を認め合い、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくりについて市民と一緒に考え、実現することを目指します。

次に、「互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

(地域で暮らし 地域で支えるまちづくり)

地域共生社会の実現を目指して、「地域で支え合う機能」「支援関係機関が連携して支援を行う機能」、「地域と支援関係機関をつなぐ機能」を整備し、地域生活課題を抱える市民を包括的・重層的に支える仕組みづくりを行います。

フードドライブ事業等を実施している那覇市社会福祉協議会への補助を通して、支えあいの仕組みづくりを支援します。

高齢者が住みなれた地域で生きがいを持って社会に参画し、安心して暮らすことができることを目的に、「第 10 次なは高齢者プラン」を策定します。

地域包括支援センターを中心に総合相談窓口、権利擁護、認知症施策の推進など高齢者がいきいきと、支えあいのある地域の中で暮らせるまちづくりを支援すると

もに、地域包括ケアシステムの深化と推進を図ります。

就労する重度の障がいのある方に対し、通勤中や職場等において身体介護などの支援を実施します。

また、大学等へ修学する重度の障がいのある方に対し、通学中及び大学等の敷地内で、身体介護などの支援を実施します。

子どもの貧困への対策として、貧困状態又は将来的に貧困に陥る可能性がある児童の自立に向け、庁内に貧困対策支援員を配置するとともに、地域の子ども食堂や学習支援などを実施する団体への運営支援を通して、子どもの居場所づくりを支援します。

(すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり)

「健康なは21(第3次)」において、市民一人ひとりが健康づくりに取り組み、健康長寿の実現を目指し、関係機関・団体・企業などを「なは健康づくりパートナーズ」として登録し、社会全体で協働による健康づくりを推進してまいります。

乳幼児健診を受診することで、親が子どもの発育・発達を確認し、安心して子育てができるようにするとともに、健診受診票のデジタル化導入に伴い、いつでもアプリで簡単に問診項目への回答ができ、健診後は結果確認もできるなど、受診率向上を目指します。

親子教室や発達相談等を実施することにより、就学前の発達の気になる乳幼児を早期に把握し、発達の気づき

を促し、必要な支援を行います。

多胎妊産婦が安全安心な出産・育児ができるよう新たに支援するほか、産後の母親の心身の回復を助け、安心して育児に取り組むことができるよう支援を拡大します。

(身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり)

救急医療や小児周産期医療を強化し、また、より高度で専門性の高い医療を安定的に提供することを目指し、建設を進めてきた新那覇市立病院が、約3年の年月を経て、昨年10月に開院しました。市民生活に欠かせない重要な医療インフラとして、その機能を最大限に発揮できるよう、引き続き、旧病院棟解体、その跡地整備を推進します。

より多くの市民や事業所が救命講習会に参加できる体制の構築、広報活動を実施するほか、市内コンビニエンスストアに設置しているAEDの機器の維持管理と広報を継続し、迅速な救命活動を行うことができる環境を維持します。

(衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり)

災害や事故などの緊急時における生活水の確保を目的に、市内の井戸や湧水について、水量・水質等の調査を行います。

次に、「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る

誇りあるまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

(子育てが楽しくなるまちづくり)

低所得世帯に対する放課後児童クラブ利用料支援を拡充し、児童の健全育成及び保護者の経済的負担の軽減を図ります。

経済的な理由で学校外教育を受けることができない子どもたちに対しては、学習塾等で利用できるクーポンを提供し、放課後の学びの格差解消に向けて取り組みます。

就学援助における中学校の修学旅行費について、支給上限額を引き上げ、制度の拡充を図ります。

保育士等の職場環境を改善し、ゆとりを持って保育ができるようにするための支援や継続就労に対する支援を行うなど、保育の量の確保と質の向上を図ります。

保育園、こども園等における発達支援が必要な児童の成長・発達を促すため、特別支援担当保育教諭等、特別支援教育ヘルパーを配置し、園児が安全安心に教育保育を受けられる環境を整えるほか、入所希望の医療的ケア児の受入れを可能とするため、看護師等の配置体制を整備します。

支援が必要な母子世帯を受け入れ保護することで、精神的・経済的な安定と自立した生活への支援を行うほか、ひとり親家庭等に対し、生活資金や子どもの修学資金等の必要な貸付けを行うことにより生活意欲の増進を助け、

その経済的自立を支援します。

(自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり)

本市の未来を担うグローバルな人材の育成へ着実に向きあうため、学校教育監を配置するほか、小学校・中学校の全校に英語指導員を配置し、ゲーム感覚で学習ができるAIアプリを導入するなど、本市の外国語教育の充実・強化を図ります。

こどもは権利の主体者であり、それを有していることへの理解を深めてもらうため、こどもや大人へ向け、「こどもの権利」についての周知広報を実施します。

小中学校の学校給食費の完全無償化へ向け、国の補助対象外についても、沖縄県と連携しつつ確実に対応してまいります。

計画的な予防保全等により、学校施設の機能と安全性を確保し、小中学校施設の長寿命化を図ります。

また、老朽化している既存空調設備の更新を進め、良好な教育環境を確保します。

障がいの有無にかかわらず、誰もが安心して学ぶことができる学習環境を整えるため、小中学校のエレベーター新設などのバリアフリー化を進めます。

(生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり)

首里公民館・図書館の大規模改修工事に伴い、ホールの舞台設備の修繕及び備品等の整備を行い、利用者の活

動充実を図ります。

繁多川公民館・図書館の冷房機器や昇降機の更新、繁多川及び若狭公民館・図書館のトイレ洋式化など、利用者が快適に利用できるよう整備します。

学校体育施設の有効活用に向け、中学校体育館へのスマートロックシステムの導入を進めます。

地域人材や資源を活用して子どもたちを守り育てる様々な活動を推進するため、地域と学校をつなぐ「地域学校協働活動推進員」の配置や、放課後の子どもたちの安全安心な居場所となる「放課後子ども教室」を実施します。

(郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり)

文化が保存され継承されるまちづくりの推進に向け、歴代国王の位牌を安置していた旧国宝の崇元寺跡地については、適切な保存・活用を図るとともに、ガイダンス施設の整備を進めてまいります。

首里城公園内の中城御殿跡地においては、国宝尚家資料の常設展示・収蔵に向けた施設整備を、沖縄県と連携しながら進めてまいります。

国指定名勝の伊江殿内庭園い え どうんちの活用、公開に向けては、引き続き、庭園部分を中心に保存、整備を進めます。

また、華茶園かちやえんの文化財的価値を確認するための調査を実施します。

文化の拠点として、本市にゆかりある芸術家と創造活動に取り組み、市民が多彩な文化芸術に触れる機会やあらゆる世代の交流を促進し、市民の創造性を育むことで、引き続き、多様性に寛容な社会の実現及び文化芸術活動が常に展開する魅力あるまちを目指します。

次に、「ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

(ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり)

MICEの誘致促進に向け、主催者やプランナーとのネットワーク形成に取り組むとともに、那覇開催の魅力を地域一体となって発信するため「那覇MICEブランド」を策定します。

本市の重要な伝統行事であり、賑わいを創出する那覇三大祭りについて引き続き開催支援を行うほか、外部専門家派遣制度の活用により、那覇市観光協会の安定した財源確保による体制強化を支援します。

本市を拠点に実施されているマリンレジャーの魅力や安全性のPR、事業者等への支援検討のため、実態調査を実施し、市内マリンレジャー振興に取り組みます。

読売巨人軍春季那覇キャンプの継続と更なる観光誘客の促進を図るとともに、市民・県民がスポーツ等に親しむことのできる環境を確保するため、多目的屋内運動場

と多目的広場を整備し施設の機能強化及び拡充を行います。

首里城正殿再建を祝う機運醸成及び首里城公園へ集中する観光客の周遊観光促進を図ることを目的に、観光カードの制作や、沿道等を装飾するシティドレッシングを実施します。

また、日米対抗ソフトボールの開催に向けて関係機関と連携した取組を実施することで国内外より誘客を図ります。

(様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり)

市内企業が抱える経営課題に対し、専門家を派遣して課題解決を伴走型で支援します。企業の経営基盤を強化するとともに、競争力や収益力を高めることで、地域経済の活性化に取り組みます。

那覇市IT創造館について、イノベーションの創出と社会実装を促進し、持続可能で高付加価値な次世代型ICT拠点の構築を目指します。

泊漁港の将来像構想の実現に向けデジタルツイン技術を活用し、施設配置や動線を視覚的にシミュレーションすることで関係者間の理解を深め、泊漁港エリアの再構築に向けた取組を着実に推進してまいります。

本市の貴重な水産資源や伝統文化を活用したコンテンツを創出し、地域経済の活性化や水産業の新たな収益化、地域資源の価値向上を図り、本市水産業の持続的な発展

へつなげてまいります。

(産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり)

県外の大学等を卒業する若者の転入・定住並びに市内法人への就職を促す奨学金返還支援について、令和9年度からの開始を県外在住の学生等へ周知します。

市内企業で働く外国人の方が安心して就業できる環境を整えるため、異文化理解の促進や地域の交流イベントの実施を支援し、外国人材の定着と市内経済の持続的発展につなげる取組を実施します。

(中心市街地を活かしたまちづくり)

中心市街地の活性化は、「稼ぐ力」に寄与するだけでなく、観光客を引きつける魅力を高めることにもつながります。中心市街地の商業と観光の両面を支えるため、「(仮称)中心市街地商業等振興計画」の策定に引き続き取り組みます。

観光資源である中心商店街(マチグー)の魅力を伝え、周遊を促す新たな取組として、デジタルスタンプラリーの導入や、那覇港に寄港するクルーズ船を対象としたプロモーション、ガイドマップの提供などの事業を展開していきます。

次に、「自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

(省エネを実践し、資源が循環するまちづくり)

ゼロカーボンシティの実現に向け、公共施設等の省エネ対策として、各施設の照明のLED化を推進します。

令和8年度は、消防庁舎、総合福祉センター、公民館・図書館、てんぶす那覇などの各施設において器具の取替更新を行い、二酸化炭素排出量の削減に取り組みます。

また、民生業務部門における取組としては、事業所等が実施する省エネ診断の費用を補助します。

市民の生活に欠かすことのできないごみ収集業務については、適切な委託料の確保などを通して、今後も安定的かつ継続的に運営してまいります。

(自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり)

市民の生活環境等を保全するため、継続して大気汚染物質の観測を行うほか、河川や海域の汚濁状況を把握し、監視指導を行います。

観光都市としてふさわしい道路空間確保のため、引き続き、街路樹の剪定や除草及び花木の植栽整備による亜熱帯庭園都市の景観づくりを推進します。

誰もが利用しやすいインクルーシブ・ユニバーサルデザインの公園を目指すとともに、災害時には避難場所として機能する安全安心な公園づくりを推進します。

また、与儀公園においては、新真和志複合施設と一体的な空間の創造と、公園の再編整備の工事に着手します。

さらに、公園の機能を高め市民が快適で楽しく過ごせ

るよう、漫湖公園及び新都心公園に続く、新たなパーク
P F I 事業に取り組みます。

(暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり)

中心市街地、真和志地域、新都心地域の3つの拠点を
結ぶ基幹的公共交通としてのLRT導入に向けて、調査や
課題対応策の検討を実施し、引き続き、関係機関等との
協議を進めてまいります。

密集住宅市街地の改善については、モデル地区である
識名1丁目地内において、「那覇市密集住宅市街地モデル
地区整備計画案」の作成に向け、状況調査や地域との意
見交換等に取り組みます。

「那覇市空家等対策計画」については、実態調査の結
果などを踏まえ、計画の見直しを行います。

また、管理不全な空家等の所有者に対し、必要な助言・
指導により自主的な管理等を促すほか、要件に即した除
却費用の一部補助を行います。

危険な盛土等を規制するため、規制区域を指定すると
ともに、既存盛土については、昨年に引き続き現地調査
等を行い、安全性の把握に向けて取り組みます。

崖崩れに対する防災を目的とした民間の対策工事等に
対して、必要となる費用の一部を補助します。

居住機能の再生推進に向けて、引き続き、石嶺・大名・
宇栄原・真地の各市営住宅建替事業を推進します。

人と動物との共生社会の実現を目指して、「なはねこサ

ポーター制度」を推進するほか、市で収容された犬猫の譲渡を促進し殺処分数の減少を図るため、譲渡ボランティアが市から譲り受けた犬猫の県外等への輸送費の一部を、新たに補助します。

（災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり）

石嶺線や真和志線等の都市計画道路及び久茂地 9 号や泊中央線等の道路において、安全で快適な歩行空間の確保や無電柱化、バリアフリー化等の整備を推進します。

安全安心な交通基盤を維持し、災害に強いまちづくりを図るため、老朽化した橋梁の予防保全型修繕を計画的に進めてまいります。

また、水道水の安定供給と災害に備え、引き続き市内一円の基幹管路の耐震化等を推進します。

さらに、公共下水道による生活環境の改善及び浸水被害の軽減を図るため、継続して汚水施設や雨水施設の整備、改築、及び重要幹線等の耐震化を推進します。

（那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり）

市域の特性を活かしつつコンパクトなまちづくりを促進するため、生活サービス機能や居住の誘導と、公共交通ネットワークの形成を連携させて取り組む「那覇市立地適正化計画」の改定を行います。

那覇軍港の跡地利用については、そのポテンシャルを活かしたまちづくりに向けて、地主会と協働するとともに

に、「GW2050 PROJECTS 推進協議会」などの関係機関との連携も深め、跡地利用計画策定に向けた取組を進めてまいります。

最後に、「市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う」に係る事業について、ご説明いたします。

(市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり)

全庁的な業務効率化等の事例として、救急搬送支援システム・粗大ごみ等受付処理システム・Web口座振替受付サービス・公立こども園における延長保育等の利用料徴収キャッシュレス化など、幅広い分野においてDXの取組が進められています。その取組を継続させるため、庁内のデジタル人材育成を促進します。

定型的な業務について、AIやRPA、チャットボット等を活用して業務効率化を図り、生み出された時間を更なる市民サービスの向上につなげます。また、進展目覚ましい生成AIを有効的に活用し、さらなる業務効率化を推進します。

国の方針に基づく基幹系業務システムの標準化を確実に進め、業務の効率化・迅速化を図り、市民の利便性を高め行政サービスの向上を図ります。

住民異動受付においてガバメントクラウド版異動受付支援システムの導入により、「書かない窓口」を推進し、市民の利便性及び職員の負担軽減を図り、事務処理を効

率化します。

(効率的で効果的な行財政運営を行う)

利用者が多い住民票などの窓口において、高齢者や聴覚に障がいのある方、外国人の方が安心して相談ができるよう、音声の即時認識と多言語翻訳、リアルタイム字幕表示が可能なシステムを導入し、適切な支援と円滑なコミュニケーションを実現して市民サービスの向上を図ります。

国民年金及びマイナンバー窓口における混雑や長い待ち時間を解消し、来庁者数の平準化を図るため、窓口予約発券システムを導入し、市民満足度の高い行政サービスの提供を目指します。

統一的な基準による地方公会計における財務書類等の作成を委託することにより、データを活用した財政分析に注力し、本市の健全な財政運営を推進します。

支所や公民館・図書館等の施設を集約した新真和志複合施設は地域のコミュニティ活動の拠点となり、敷地の一部に整備される民間施設と共に賑わいと交流の創出を目指して、令和8年度に着工し、令和10年度の供用開始に向けて事業を推進してまいります。

(結びに)

市政運営にかける私の思い、令和8年度の予算案や主要事業の概要などについて説明いたしました。

最後に、もう一言、私の思いを添えたいと思います。

(未来を拓く、なは☆ひとづくり、まちづくり、ゆめづくり)

去る 12 月、沖縄尚学高等学校野球部の部員一人ひとりへ青少年特別賞のメダルを授与いたしました。甲子園優勝は、グラウンドに立った選手はもちろん、ベンチで声を枯らし、スタンドから声援を送った部員全員が一丸となって力を尽くした成果であることから、チームへの表彰に加え、それぞれの栄誉を讃えるために実施したものでございます。授与式の際、「全員で戦ってとった優勝だとあらためて実感できた。そういったことを分かってもらえて嬉しい」との感想を聞き、はにかみながらもメダルに刻まれた自身の名前に誇らしさを感じている姿を見た時には、感慨無量でございました。この経験が、部員それぞれの未来を照らす灯りになることを願っております。

私は、これまでの行政経験の中で、個人の持つ情熱、知恵、そして努力が結集された時、想像をはるかに超える大きな力が生まれることを、身をもって体験してまいりました。「未来を拓く、なは☆ひとづくり、まちづくり、ゆめづくり」という言葉は、それらの体験から生まれたものであり、まちづくりにおいて、個人を大事にしたいという思いが込められております。

本市の未来が、「人々が笑顔にあふれ、支え合い、安心して生活を送り、誰もがそれぞれの夢を描ける魅力的な

まち」であるためには、まちづくりの様々な場面で、舞台に立つ方はもちろん、その舞台を作り、支える方々が必要でございます。そして、そのすべての方が輝ける那覇市を実現したいと考えております。

また、それぞれが持ち場で活躍する力を結集するためには、夢を共有することが重要であることから、常にまちづくりの「夢」を掲げ、旗振り役として皆様と前進してまいります。一人ひとりの日々の暮らし、仕事、地域活動、そして希望を原動力に、なほの輝かしい未来を拓くために全力を尽くしてまいります。

市民の皆様、並びに議員各位におかれましては、ご理解とご協力を心よりお願い申し上げます、令和8年度施政方針の結びとさせていただきます。

いっぺーにふえーでーびる。

令和8年2月9日

那覇市長

知念 寛

なはで暮らし、働き、育てよう！
笑顔広がる元気なまちNAHA
～みんなでつなごう市民力～



発行 2026年2月
那覇市企画財務部企画調整課